

春キャベツの菌核病の防除時期

和歌山県農業試験場

キャベツ菌核病とは

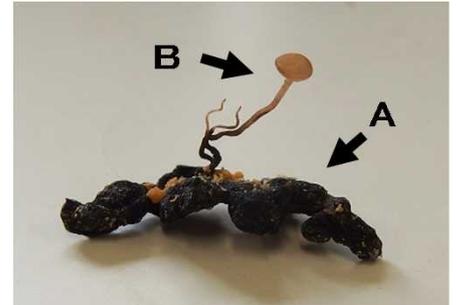
株が灰白色に腐敗する病害で、最終的には被害株の表面に黒色の菌核を形成することが特徴である。土中に残存した菌核が発芽すると子のう盤(キノコのようなもの)を形成する。菌核病は、子のう盤に形成される子のう胞子によって感染し、結球期以降に発生することが多い。



キャベツ菌核病の発病の様子

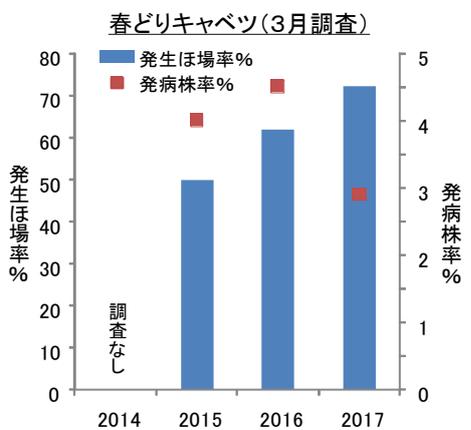
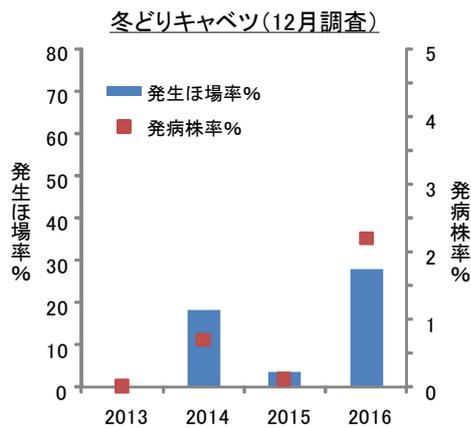


多発ほ場



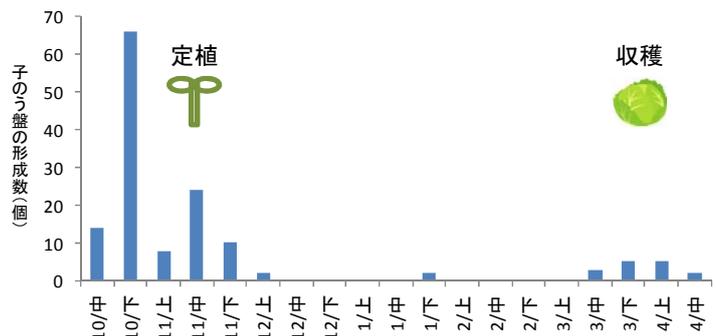
菌核(A)と子のう盤(B)

和歌山市では 春どりキャベツで発生が多い！



春どりキャベツの感染時期は 定植直後から12月と3月！

子のう盤の形成数の推移 (2016~2017年)



11月、12月、3月の防除で効果あり！

農薬の時期別散布によるキャベツ菌核病の防除効果

区	散布日				発病株率%	防除価
	11/24	12/12	2/24	3/18		
11月散布	○				11.9	45.1
12月散布		○			9.6	55.6
2月散布			○		17.1	21.3
3月散布				○	10.7	50.6
11、12月散布	○	○			12.0	44.4
11、12、3月散布	○	○		○	6.0	72.2
無処理					21.7	

※供試薬剤:ロブラール水和剤 1,000倍

※防除価は100に近いほど効果が高いことを示す

春キャベツの菌核病の効果的な防除時期は、
定植直後から12月までと、再び子のう胞子が飛散し始める3月以降 と考えられる。